

これからの農業ビジネスのあり方を考える 農業ビジネスの現状と未来

研修のねらい

担い手の減少が続く日本の農業ですが、適切な経営管理を実践し、市場のニーズに応じていくことで、しっかりと稼ぐことができるビジネスとなります。また、今後、急速な拡大が予想される「スマート農業」などによって、**農業ビジネスを取り巻く環境は大きく変化**することが予想されています。

この研修では、農業ビジネスの現状と全体像を理解した上で、**農業ビジネスで安定して利益を上げる**ために必要な**マネジメントやマーケティング**の視点、今後拡大するデジタル化社会に対応できる**スマート農業**の動向を学び、安定的かつ効率的な農業ビジネスに取り組むことのできる企業を目指します。

研修のポイント

- ☑ **農業ビジネスを取り巻く現状や、スマート農業などの最新動向を理解します。**
- ☑ **市場や消費者ニーズをとらえ、それに応えていくためのマーケティングを学びます。**
- ☑ **稼ぐ農業を実現するための、今後のビジネスの進め方を検討します。**

研修期間

2022年
2/9^水 ~ 2/10^木

対象者

農業ビジネスに携わる
経営者・経営幹部・
管理者・新任管理者

定員 **20**名

受講料 **22,000**円(税込)

会場

中小企業大学校 人吉校

熊本県人吉市鬼木町梢山1769-1

九州農業成長産業化連携協議会 連携

共同事務局 (一社)九州経済連合会、
(一財)九州オープンイノベーションセンター、
九州農政局、九州経済産業局

月日	時間	科目	内容
2/9 水	9:15-9:30	開講式・オリエンテーション	
	9:30-12:30	農業ビジネスを取り巻く環境の変化	今後の農業ビジネスを考えるにあたって必要とされる農業を取り巻く環境の変化(経済・法律・技術等)や今後の動向について学びます。 ・ 少子高齢化、食生活の変化 ・ 食品流通の変化、輸出の拡大 ・ 農業経営の二極化と新しい担い手の台頭 ・ 農商工連携と6次産業化の課題 ・ GAP(農業生産工程管理)の認証取得
2/10 木	13:30-17:30	農業ビジネスの全体像	農業をビジネスとして捉える際に必要とされる知識やスキルの全体像を俯瞰しつつ、一般的なビジネスとの相違点等についても学びます。 ・ 農業ビジネスの全体像と一般的なビジネスとの相違点 ・ 経営戦略と経営・組織マネジメント ・ 農業財務の基礎 ・ 生産管理・技術の考え方と活かし方 ・ リーダーシップとコミュニケーション、仕事の進め方
	9:00-12:00	農業ビジネスで必要なマーケティングの視点	稼ぐ農業を実現するためには、市場や消費者ニーズを適切に把握し、それに応えていくことが求められます。そのために必要な農業マーケティングの基本的スキルを学びます。 ・ 市場調査・分析、ニーズの把握、ターゲットの設定 ・ 販路開拓、商談、価格設定 ・ データ分析と活用 ・ 消費者ニーズを考える(演習)
	13:00-16:00	スマート農業の動向と今後の農業ビジネス	先進的な農業経営者の多くが取り組んでいるスマート農業に関する動向と実践事例を学ぶとともに、今後の農業ビジネスについて検討していきます。 ・ スマート農業に関する動向 ・ スマート農業の実践事例 ・ 今後の農業ビジネスを考える(演習)
	16:00-16:10	終講式(修了証書交付・アンケート記入)	

※カリキュラムは都合により変更する場合がありますので、予めご了承ください。
※受講者交流会は中止いたします。

講師紹介(敬称略)



株式会社農テラス
代表取締役

山下 弘幸(やました ひろゆき)

野菜農家の3代目として熊本県益城町に生まれる。1989年、熊本県立農業大学校卒業後、家業に就農。1996年、27歳で農業経営を始めるが、経営力不足により事業を悪化させる。経営に対する甘さを痛感し、欧州、豪州、アジア10ヶ国の先進地視察研修を経て、国内企業の経営を農業に応用した独自の「戦略的農業」のヒントを得る。2002年、自社経営を「カイゼン」し、「稼ぐ農業経営」を確立、黒字化に成功。2008年、農業ベンチャー企業「株式会社果実堂」と出会い、企業農業に挑戦する。2009年、同栽培管理本部長兼農業生産法人「株式会社果実堂ファーム」代表取締役に就任。持続継続できる「人づくり、仕組みづくり」に着手し後進を育成する。2012年、新しい農業の確立には人材育成が急務であると感じ、全国初の農業参入専門のコンサルタント会社「株式会社農テラス」を設立し、代表取締役に就任。農業参入に必要な「人づくり、仕組みづくり」に取り組んでいる。

